

木曽川流域 木と水の循環システム協議会

この協議会は、木曽川流域の山の恵み・川の恵み・地域を支える自然の恵みを知り、その恩恵を次世代に継承していく「流域思考」を形成・共有するために設立されました。

主に木曽川流域材の概念形成、エコブランド化を企画実践し、林業事業者から製材加工業者、木材流通業者、建築施工業者など木曽川流域の川上から川下までの木材・建築関連業者が参集、連携し、消費が生産（再生）を生む「活用消費」の具体的実践を推進する活動を行っていきます。

流域圏で豊かに暮らしていける未来を目指し、流域の農商工関連業者との交流・連携により、人の絆を重視した循環型の流域経済活性化の具体的取り組みを行うことを目的とします。

木曽川流域 木と水の循環システム協議会

【事業内容】

- 1 木材・農林水産物のブランド化
- 2 消費地と産地との交流・連携促進
- 3 活用消費地と流域産業の連携イベント
- 4 非住宅（公共建築物含む）への資材・技能の提案
- 5 地域資源を活用した新商品開発など
- 6 流域文化に関する調査・研究・発表・出版
- 7 他の流域との交流・連携



“LIVE CYCLE”

で「未来を守ること」



国土の3分の2が森林という、世界有数の森林大国・日本。にもかかわらず、木材輸入の自由化により、国産材の自給率はかつての9割から2割近くまで激減、現在は約7割以上を輸入木材に頼っているのが現状です。

木曽川流域は、天然林・人工林（育成林）ともに、良質な木材資源が豊富です。適切な利用／管理のされた人工林は、大きな成長力があり、伐採することで森の健康を維持し、森林の持つ自然機能を発揮させるのです。

山の恵み、川の恵み、水の恵みを受けている木曽川流域に住む私たちが、木曽川流域材を材として、エネルギーとして、ライフスタイルとして積極的に活用消費することで、森林の多目的機能が発揮され、災害防止にもなり、地産地消であるがゆえに、輸送などに使われる化石燃料やCO2の排出量が最小限に抑えられます。

活用消費する私たちには安心・安全な豊かな暮らし、一方木曽川流域材を生産する山村は活性化され、森林は健康維持される。そんな理想的な循環が“LIVE CYCLE”と呼ばれ、次世代の生きる「未来を守ること」へとつながる社会になることを目指しましょう。



森は水の源
水は命の源
川は命のつながり



木曽川流域材ブランドのロゴマークです

尾張名古屋圏（下流域）の生活を支える御嶽山を中心とした木曽川・飛騨川水系（上流域）の集水域（木曽谷地域・飛騨川地域・木曽川地域）から産出される産地が明確な国産材です。

木曽川流域の地の恵みから産み出される木曽川流域材は高品質で安心な住まいになるだけではなく、活用消費することで、モノ（製品）やコト（文化）が、循環し、身近な暮らしの中で活かされることによって、流域経済を潤すと同時に、次世代へと継承できる豊かさへとつながっていく地産環活ブランドをめざします。



選んで安心の高品質

木曽川流域材は、ただ産地を指す呼び名ではなく、木曽川流域 木と水の循環システム協議会加盟業者が生産供給する、一定の基準をクリアした高品質優良木材ですので安心してお使いいただけます。

森林資源無駄なし活用商品として

マテリアル	エネルギー	ライフスタイル
 構造材	 ペレット(燃料)	 家具
 内装材	 ペレットストーブ	 アロマオイル
 外装材	 薪	 水 食器